

令和元年度 第2回
鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会

日 時 令和2年3月13日（金）午後2時00分から

会 場 鴨川市文化体育館2階会議室

出席者 花山藤太郎・山下洋介・鈴木健史・島田誠一・荻込信道・川井幹雄・
渡辺淳一・清水宣雄・江羅茂・座間斉・森谷宝子・里見美佳・瀬戸川賢二

事務局 副市長・佐久間建設経済部長・鈴木スポーツ振興課長・鈴木課長補佐・吉田
係長・西宮主査・スポーツを通じた地域振興庁内プロジェクトチーム・
（一社）ウェルネススポーツ鴨川 岡野、小野地域おこし協力隊員

1. 開 会

2. 委任状交付

3. 市長挨拶

4. 議 件

- （1）令和元年度鴨川版地域スポーツコミッションの事業報告について
- （2）令和2年度鴨川版地域スポーツコミッションの事業結果について
- （3）その他

6. 意見交換

7. 閉 会

1. 開 会

○司会 皆さん、こんにちは。ご案内をさせていただきました時間となりましたので、ただ今から平成元年度第2回鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会を開催させていただきます。

私は、本日司会進行を務めさせていただきます建設経済部スポーツ振興課の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、会議資料の確認をさせていただきます。

本日の資料は、会議次第、委員名簿、会議の設置要綱、今日説明いたします会議の資料ということで、綴じたものがございます。それとパンフレットが2種類ございます。

また、事務手続上、新しく委嘱させていただく方につきましては、口座振込依頼書と委員承諾書を配付させていただいております。委員就任の承諾書、口座振込依頼書につきましては、会議終了までにご記入いただき、事務局の方に提出をお願いいたします。

また、本日の会議でございますが、附属機関等の会議の公開に関する実施要領に基づきまして、公開で行うこととされております。つきましては、本日の会議の傍聴についてお許しをいただきますとともに、会議録を作成するために録音をさせていただきたいと存じます。

なお、会議録につきましては、個人情報等を除いた概要版を公開することとさせていただきますと存じます。

なお、新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、この会議では遠慮なさらずマスクの着用をさせていただいて構いませんので、よろしくお願いいたします。このような状況でございますので、会議につきましては、1時間弱を目安に進めていきたいと思っておりますので、ご協力の方をお願いいたします。

2. 委嘱状交付

○司会 続きまして、次第の第2になりますが、まず、団体役職者の交代等に伴いまして、新たに推進委員になられます方に、副市長から委嘱状の交付をさせていただきます。どうぞ自席にてお受け取りください。

〔委嘱状交付〕

3. 副市長挨拶

○司会 続きまして、次第の3になりますが、小柴副市長からご挨拶を申し上げます。

○副市長（小柴祥司君） 皆さん、改めまして、こんにちは。本日、市長が急用ができません、出席できませんことを、まずはお詫び申し上げます。

本日、第2回スポーツを通じた地域振興推進委員会を開催いたしましたところ、大変お忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、日ごろからスポーツを活用したまちづくりの推進に多大なご貢献を賜っておりますことを、この場をお借りいた

しまして、重ねて御礼を申し上げます。

今年度一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川では、大会、合宿等の誘致やスポーツコミッション集客システムの構築などの事業を中心に市の委託を受けまして、皆様からのご意見をいただきながら、市民スポーツの底辺拡大や交流人口の増加に取り組んで参りました。

そのような中、本市におきましては、昨年の度重なる自然災害に加えまして、最近の新型コロナウイルスの感染症の影響によりまして、スポーツを初め各種イベントが中止や縮小開催に追い込まれるなど、大変厳しい状況となっております。しかしながら、観光や農漁業、商工業、医療福祉といった主要産業に加え、多くの来訪者を本市に寄らせるスポーツをひとつの産業と位置づけ、活用することは強い鴨川づくりに不可欠であると存じております。今後も地域スポーツコミッション、ウェルネススポーツ鴨川を核といたしまして、地域の持つさまざまな魅力を引き出し、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に地方創生の推進につなげてまいりたいと考えておりますので、委員皆様方におかれましては、引き続きのお力添いを賜りますようお願い申し上げます。この後さまざまな案件につきまして、ご意思でご審議を賜りますが、専門的な知識やご経験、確かな地点から忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。ここで小柴副市長でございますが、この後ほかの公務が入っているということでございますので、ここでご退席をお願いいたします。

4. 議 件

○司会 次第の4、議件に入らせていただきたいと思います。会議につきましては、設置要綱の第4条に基づきまして、過半数以上の出席を得ておりますので、成立することを申し添えさせていただきます。以降の進行は推進委員会の委員長をお願いしております花山藤太郎委員に一括して、お願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○花山委員長 それでは、ただ今から委員長を務めさせていただきます花山でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、本日の会議録の確認をしていただく委員を決めさせていただきたいと思いますが、その方法は私からの指名をさせていただくことでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○花山委員長 ありがとうございます。それでは、会議録の確認について、本日は城西国際大学観光学部、渡辺淳一委員を指名させていただきたいと思います。

次に、議事に移ります。本日の議事につきましては、予めお手元にお配りしてごさいます会議次第に沿いまして、進めさせていただきたいのでご了承願います。

(1) 令和元年度鴨川版スポーツコミッションの事業報告について

○花山委員長 議件の（１）令和元年度鴨川版地域スポーツコミッションの事業報告についてを、議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 皆さん、こんにちは。一般社団法人のウェルネススポーツ鴨川で専務理事を勤めております岡野と申します。私の方から第１号議案の本年度の事業報告につきまして、プロジェクターを使いながらのご説明をさせていただきます。

まずは昨年度のおさらいということで、昨年度、鴨川市によるスポーツを通じた地域振興計画が策定をされました。その中で鴨川版地域スポーツコミッションの創設の必要性、またそれを受けまして、昨年３月２２日に一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川、我々、役所で、ウェルスポと呼んでおりますけれども、当法人が設立されました。

その計画の中で掲げられた２つのビジョン、これを私たちウェルスポも継承しております。新産業と雇用の創出、また健康で質の高い生活の実現、この２つを大きな柱としております。お手元の資料を見ますと、スポーツが日常・文化となった市民生活を基盤としてスポーツビジネスが持続可能性をもって成立する、いうなればウェルネスシティ鴨川の実現を目指そうということになっております。

それから分かれる経過といたしましては、移住促進・人口流出抑制、また鴨川市ブランドというものがスポーツウェルネスを通じて創出されていくこと、そして地域社会が持続可能性をもつということを最終的には目指していきたいとビジョンの中では謳われております。

次に、我々の組織はどのような構成になっているか。こちらは今日お配りした資料にも同じものが載っておりますので、ご参照いただければと思います。この中で推進委員会の画面の中央右側になりますけれども、組織の重要な諮問機関ということで設置をさせていただいております。

我々の主要事業はこの３つを大きく掲げております。ひとつは、スポーツイベント・キャンプの誘致事業、そして施設の利活用事業、そしてもうひとつがスポーツ文化創造事業、この３つを柱として事業展開をしております。

それでは、本題であります本年度の事業報告に移らせていただきます。本年度我々は鴨川市及びオリパラ推進本部より大きく２つの事業を受託しております。ひとつが大会・合宿等誘致、この辺は小さい文字で見づらいと思います。これは仕様書上に書かれているものをそのまま提示したものであります。もうひとつがスポーツコミッション集客システム構築ということで、こちらはまさにスポーツコミッションのこれから築いていくメインの受託事業になって参ります。それを詳しく説明をさせていただきます。

先ほど掲げた３大事業の１番目、スポーツイベント・キャンプ誘致事業であります、今年度我々が掲げた重点目標といたしましては、ひとつは民間団体ならではの鴨川市で開催することの付加価値の創造、また、そのイベントが一発で終わらない、その続きに何かストーリー、あるいは何かをもたらしていく、継続性・将来性を追求して参りました。どうしても今まで、例えばいろんなイベントですとか合宿、こちらの施設も活用されております。ただ市だけが取り組みますと、どうしても付加価値を高揚させてくる、鴨川でよかったなというところを追求してくれるところはなかなか限界があるという部分もありますの

で、我々民間団体が入ることによって、さらに民間のほかの団体とも連携をしながら、そういったキャンプ、イベントの付加価値を高めるということを特に追求して今年度やって参りました。

例えば1番目としては、自転車ロードレース開催事業ということで、昨年8月24日、25日に例年行われております、第4回JBCFブルークリテリウムin鴨川、これは自転車のレースになりますが、開催しました。この開催の支援をいただきましたが、今年度は参加者・観客への付加価値向上ということで、鴨川サイクルまつりというものを企画・併催をいたしました。

これが実際の大会の様子です。これは鴨川総合施設内をこういう風に集会コースで、レベルによって違うのですが、約25キロと35キロぐらいを何回も走るといような、かなり競うレースとなっております。これは表彰式の様子ですが、例年はここまででした。

今年度は、鴨川市が協定を結ぶ大塚製薬のご協力を得まして、今年8月の開催だったということもあって、熱中症対策で当法人から飲料を配付をさせていただいたのと、後は先ほど申し上げたサイクルまつりということで、例年こうしたお店は出てなかったのですが、こういったお店の出店にご協力いただいて、また、ステージを使わせていただいて、トークショーなども開催をしたわけでございます。

また、今日1階に置いてありますけれども、電動アシストのスポーツバイクをつくらせて、その日にこの総合運動施設を発着しての体験ツアーを実施いたしました。それがこの様子です。そういったことを関与して参りました。

また、サーフィンの振興事業といたしましては、4月19日から21日、全日本級別サーフィン選手権大会、これは非常に大きな大会になりますが、鴨川開催を支援したり、6月2日、例年行われております鴨川シティカップ、また10月5日から6日、昨年度2018年から行っておりますボディボードのツアー、J P B Aツアー第5戦、こちらの大会を支援し、またアンケートを調査をさせていただきました。

その時の写真、これは4月の全日本級別選手権の写真になります。これは全日本の大会ですので、全国から選手が集まって3日間かけて競い合う大会になります。1日目、金曜日の夜には鴨川シーワールドのマリンシアターをお借りして、この舞台からアニメーション「君と、波に乗れたら」の先行上映会も開催いたしました。こちらがJ P B Aボディボードの大会となります。このようにアンケート調査を現地でさせていただいております。

続いて、女子ソフトボールの誘致事業ですが、これは今年ソフトボールの日本代表の日程がありまして、合宿を行わなかったのですが、それに近い野球の試合ということで、全日本女子硬式クラブ野球選手権大会、10月12日から13日、鴨川で予定されていたのですが、残念ながら台風19号がちょうどこの日に襲来してしまったということで、中止となっております。我々の方としては事前のチラシ作成・配布ですとか、また、当日行われていれば、来場特典を加えたりですとか、あるいは鴨川会場独自の表彰企画なども考えておったところですが、残念ながらこれは実施できませんでした。

これはその時のポスターチラシになります。左側は大会の公式のポスターです。右側是我々鴨川独自に作った市民向けに配布したチラシになります。

続いて、車いすバスケットボール誘致事業は、今年度は日本代表のスケジュールの都合もありまして、実施は鴨川では実施されませんでした。

そして、昨年度から2回目になりますが、ブラインドサッカー誘致事業ということで、10月5日から6日にかけて、こちらの鴨川総合施設を会場といたしまして、キャンプを行いました。これに対しては2例目ということで、これから多分定番のキャンプになっていくのではないかと思います。なお、ブラインドサッカーの女子、ブラインドサッカー自体、皆さんまだご存じないかと思うのですが、いわゆる視覚障害を持った方々のサッカー、見えない中でやるサッカーになります。女子のレベルは、日本がなくて、初めて行った2017年オーストリアのウィーンで行われた大会では日本が優勝しております。

また、つい最近ですけれども、2月に行われたさいたま市の国際親善試合になりますが、アルゼンチン代表に8対0で勝つということで日本の女子のレベルが今世界1のレベルにありますので、実はそういったパラスポーツのチームが鴨川で毎年合宿をしてくださる。女子のブラインドサッカー、今回の東京オリンピックでは選手種目にはなっていないのですが、次のパラリンピックでは恐らく正式種目に採用されるのではないかと目されておりますので、そういった意味では、そういったチームが鴨川でキャンプをさせていただいているから、本契約なのかと思います。これがその時の合宿の様子です。このような形で、今回サッカー場と文化体育館と1日、1日で行われました。

続いて、東京オリンピックの事前キャンプ誘致事業ということで、現在数年かけまして、女子サッカーの欧州代表チームの誘致を行っております。現在でも誘致活動終盤になっておりまして、現在合意書の作成等の最終調整に入っているところでございます。

その時の誘致活動の様子の写真をご覧ください。

これが実際日本に来られた時の、遠目の写真でしか使えませんので、こちらでご勘弁いただきたいと思います。後病院関係の視察をさせていただきました。こちらは東京オリンピックの選手村です。今、晴海に建設をされております。

続いて、2番目は、施設利活用事業に関しては、今年度総合運動施設の多機能・複合化を目指そうということで、実はこの交付金事業のひとつのKPI、目標値設定の中に総合運動施設の利用者を増やしていこうということがございます。我々としていろんな検討した中で、アスリートだけではなく、市民の皆さんに幅広い目的で、極端に言えば飲食に来てもいい、あるいは子どもたちを見ながら、そこでコミュニティーでお母さんたちが集うのも、それも利用者であるというようなカウントをしていくべきではないかということで、そういった目線から、施設の複合化を目指してはどうかということを我々法人からの提案をさせていただいております。その結果、利用者層が増え、多くの市民が集まり、結果的にはKPIが捉えている利用者数の向上につながる、そういったところを目指していきたいと考えております。

そのひとつの目標といたしましては、昨年7月3日に我々法人また市のスポーツ振興課、また市議会の委員会の皆様とともに掛川市体育協会を訪問させていただいております。こちらはスポーツ施設の指定管理を行っているだけではなく、地域総合型スポーツクラブの運営、またツーリズム業務の展開をされておまして、驚くべきは、もちろん指定管理ですとかは行政からの委託が入っておるのですが、総合型スポーツクラブに関しては、基本会費だけで全部運営をしているという、自走ができているという体育協会さんになります。ですので、そういったところの様子を伺いに行って参りました。

これがその時の様子です。これは体育館になりますけれども、例えば、ロビーの一角

で、これはどれだけ売れているか分かりませんが、こういった地元の産品が売られていたりですか、これは、プレゼンテーションを受けている様子です。今日は時間の都合で詳しくお話すると長くなってしまいますので、こういった視察を行っております。

そういった視察などを受けまして、現在総合運動施設の将来像、またそれに向けた整備計画、そして一番重要な総合運動施設等の施設をどういう風な体制で運営していくべきなのか、そういったところの策定を行いまして、現在、オルカ鴨川FCの社長でもあります小野さんにご協力をいただいたりしながら、現在、動き始めをしているというところでございます。

これは千葉大学の学生の方に描いていただいたものですが、これは確定案ではないので、ひとつの参考案としてご覧ください。これは現在の空撮ですが、例えばこれをこういうような形でうちちょっと整備をしていく。これは分かりませんが、このようにしたいということで、今計画をいろいろ計画を策定しているところです。

続いて、最後のスポーツ文化創造事業に関しましては、本年度の重点目標としては、ひとつは地域資源とスポーツ・アクティビティを掛け合わせた事業を考えていきたいということと、これは昨年度から申し上げているスポーツの日常化、特に市民におけるスポーツの日常化について、いろいろな取り組みを考えて展開していきたい。B to B、これは企業・団体向け、そしてB to C、消費者、個人向けの商品・プログラムをそれぞれ造成していきたい。結果としては我々がある程度自走する部分も必要になって参りますので、そういった自走事業の確立をしていきたいということで取り組んで参っております。

1番目としては、マリン・ビーチスポーツというものをテーマに、5月から8月のちょうど初夏から夏に入る間に前原横渚海岸等でビーチ部分の活用を幾つか試して参りました。例えばビーチアクティビティの運営を海岸でされておりますけれども、その運営の支援ですとか、あるいはビーチを活用したレクリエーションの企画・実施もしております。具体的には8月にそれぞれ大人向け、また子ども向けのビーチアクティビティの企画・運営をさせていただきました。それがこの写真ですけれども、これが今夏、前原海岸、横渚海岸に設置したビーチサッカーのゴール、簡易ゴールになります。こういったところで皆さんに親しんでいただく場所を作ろうということでやらせていただきました。

こちらは実際に前原海岸で子どもたち対象に合宿に行った埼玉の子どもたちと、地元のオルカスクールの子どもの交流事業を企画・運営をさせていただきました。その時の集合写真です。

これは城崎海岸になりますが、城崎海岸では6月のものになりますが、これは何をしていますか。これは実は、予め決められた70センチメートルとかの穴を、メジャーを使わずに手でも道具でも使ってもいいので、掘って、誰が70センチメートルに一番近いかに競う、誰でもできるゲームです。さらに、この後にその穴を使ってゴルフ的なものを行いました。ということで、決して我々、本当にトップアスリートとか、スポーツをやっている人でなければいけないものではなくて、いろんな人が楽しめるようなレクリエーションですとか、ゲームですとか、そういったものを我々ビーチでもいろいろ考えていきたい。多くの人たちにさらにビーチに親しんでもらいたいということを考えて展開をしております。

続いて、これから当法人でかなり力を入れている分野になりますけれども、サイクルツ

ーリズムということで、下にe-bikeを展示してありましたけども、12月からレンタルサイクルサービスを施行しております。そして11月、12月、2月にはサイクルモニターツアーを実施させていただきました。また、今年度、ロゲイニングアプリ、ちょっとロゲイニングという言葉聞き慣れないと思いますが、オリエンテーリングという言葉に置き換えていただければと思います。要はスタンプラリー的なもの、そのアプリゲーションを開発しております、これを今後我々のスポーツ、サイクリングですとかハイキングですとか、そういったイベントですとか、あるいは市ですとか、この地域、もっと広い地域ですとか、いろんなところでこのアプリを活用していきたいと考えております。

ちなみに後ろが私で前が小野さんです。これは静止して撮ったのです。小野さんは完璧にバランスを保っているのですが、私の左足は実はついてます。こういったレンタルサイクル用の写真素材を撮影したりしております。

これは実際のツアーの様子ですが、このようにe-bike、皆さん耳慣れないことですので、まずはこういった説明をした後に、これは嶺岡の林道になりますが、実はe-bike、ぜひ皆さんも試していただきたいのですが、e-bikeに乗りますと、嶺岡の林道は標高200メートルぐらいあると思うのですが、そこまでの急な坂を、疲れを感じずに登り切ることができます。ほとんど息も切れません。なので、こういったものがこれから、今まで自転車に乗ってきた人以外のツーリズムなどで活用できる、ヨーロッパではe-bikeはかなり成功してあるのですが、いよいよ日本が一昨年、e-bike元年と言われておりますが、これから恐らく日本でも普及していくのではないかと。その先陣をとりたいということで、我々としては展開をしております。

魚見塚の坂も登れました。展望台に鍵をつけてもらっている様子です。あと松島です。

これは別のツアーになりますが、これはやはりe-bikeを活用したツアーで、例えばこれは島田こうじ屋さんに伺って、こういったお話を聞きながら、地元のことを学びながら、e-bikeに乗っていくツアーを企画しております。

この時は各農家さんとかお店から食材をきちんと購入しております。調達して、最後、みんなみの里にありますセミナー室を活用して、自分たちで料理をして、食べたという企画をしております。これは企業のユーザーの方に集まっていたいただいて、皆さんで発表していただいている様子です。

こちらは2月に行われた一般向けの自転車、スポーツバイク、クロスバイクを使ったツアーになります。田村農園さんに伺いまして、ただいちご摘みをするだけではなくて、去年の台風のご苦労ですとか、この時は新型コロナウイルスの影響がかなり来ていましたので、そういった苦労をされているお話を伺いながらいちご狩りもしていただいて、さらに長狭平野を走って、大山千枚田まで登って、大山千枚田でお話を伺って、同じように、またみんなみの里のセミナーハウスを使って、この季節の菜花ですとか、そういったものを調理して、皆さん召し上がって帰っていただいたというツアーになっております。

これがロゲイニングアプリの画面になりますが、これだけですと分かりにくいと思うのですが、オリエンテーリングで決められたポイントを回っていただいて、スタンプを押していただく。これはイベント型ではなく、キャンペーン型と言います。例えば2カ月間実施する、あるいは連続的に実施することもできますので、これはいろんな使い方で、自転車だけではなく、サイクリングでもできまし、いろんな形で使えますので、今後、本格的

に稼働させていきたいと思っております。

さらに農林業とスポーツを掛け合わせた地域資源の活用ということで、昨年スポーツ草刈りの説明をしたと思いますが、これがJTBで取り上げていただいて、JTB地球いきいきプロジェクトとして、スポーツ草刈り体験を10月26日に実施いたしました。

また、11月7日には地元の方々によるサミットの2回目が行われました。その時の写真です。これがJTBの方です。参加者の方が草刈りを実際に体験していただきました。ほとんどの方が草刈り機を全く使ったことがない方になります。

こちらが昨年行われた草刈りサミットの様子です。こちらは各農家の方々が刈ってますので、このようになんかきれいに刈られている。これはその様子になります。昨年より間違いなくレベルアップをしております。審査もかなり大変でした。昨年はもうちょっと軽めで審査できたのですが、皆さん、本気モードで来てましたので、なかなか地元の方がこういう風に盛り上がってきているというのは大きいと思います。

そして、パラスポーツという部分におきましては、12月22日に「ウエルk a m o X' MAS GAME S」というパラスポーツをテーマにしたイベント、ただし、パラとかスポーツを前面に出さない、どちらかと言うと、市民の方々が気軽にで参加していただけるようなイベントとして開催しました。これがその時のポスター、チラシです。その時の様子です。文化体育館、イルミネーションのツリーを作りまして、またロビーにはパラリンピックのパネル展示ですとか、社会福祉協議会の方々にも出店にご協力いただいております。このように子どもたちを中心に、ボッチャですとか、ブラインドサッカーですとか、いろいろなパラスポーツを体験していただいたというイベントになります。

最後は、シンポジウム、トークショーを開催しております。ここではパラリンピックに出られた方ですとか、市内在住のパラスポーツをやられている方ですとか、いろんな方に集まっていたいただいて、トークショーを行いました。

続いて、地域ウェルネスの推進ということで、主にみんなみの里を会場に「ウエルk a m o 教室」という、いわゆる健康教室を実施しております。子ども向けの企画も実施して参ります。今日皆さん、ご覧になったと思いますけれども、文化体育館のロビーをもうちょっとブラッシュアップして、ウエルk a m o コーナーというのを開設して、そこでいろんなインフォメーションなどを流していきたいと考えております。

これがウエルk a m o 教室の様子であります。このように現在月3回行われております。これが子ども向けのイベントになります。これはイオンの館山で同じような子ども向けのイベントを開催させていただいております。

これは夏の8月に「スポ育」というスポーツを通じた子どもの育成の合宿、2泊3日、鴨川で行われまして、最終日に流しソーメン用の竹を使った樋を作っているところですが、こういった子どもたちが作ってみんなで流しソーメンを食べるという体験をしていただいて、地元の方々にもご協力をいただきました。

最後に、我々の方では多くの市民の方々に知らしめていかなければいけないということで、プロモーション、ウェブ、あるいはSNS、また今日お配りしましたけれども、PRパンフレットということで、第1弾はサイクル、また法人案内のパンフレットを作成したりですとか、プロモーションを今、徐々に始めているところです。

また、人材を育成しなければならないということで、例えば、社員には、具体的にはこ

ういった資格取得をしてもらったりということを行っております。

最後に、今年度を振り返って、来年度以降の展望・課題というところで申しますと、ひとつは、正直に申し上げて、今年度は特にこの半年、想定外のことが起こり過ぎて、残念ながら当初予定していた事業が全て実行できたかと言うと、残念ながら満足には実行できていない、ちょっと工夫しながら、苦しみながらやっていったというのが事実でございます。

ただ今後、観光業の方々を中心に、本当に大変な、ダブルパンチのような状況になっていると思うのですが、我々のこういった想定外が起こるということを想定して事業を組んでいかなければいけない時代に来ているのかなという風に考えております。今年で言えば台風ですとか、新型コロナウイルスというものがありますけれども、そういったところを考えていかなければいけないと言うか、Cプランも考えながらやらなければいけないのではないかとということも、今年の教訓としてはありました。

さらに我々スポーツコミッションの大きな課題になりますけれども、収益事業と公益事業をしっかりと意識してやっていくということです。全ての事業が自走できるというのは、はっきり申し上げますが、無理です。

我々の事業というのは、地域の福祉に資したいとか、子どもたちの育成に資したい、そこではなかなか利益を生めない、あるいは生んではいけないという事業もありますので、そういったところは市と連携して、市のサポートもいただきながら、我々が継続しなければなりませんし、だからといって、それが100%ではなかなか厳しい中で収益事業も追求していかなければいけないということで、その分別をこれからしっかりと、市ともしっかりと話し合いしながら、ここの部分は自走しますよ、ここの部分はこれから一緒にやりましょうねというような持続可能な収入のバランスというものを実現しなければならないという風に強く感じております。

そして、収益事業を確立するためには、プログラム・商品の造成をしっかりとしていかなければならない。また、これは市の課題でもあります、総合運動施設の指定管理を我々としてはできれば受託をしていきたい、それに向けて我々としても努力をしていきたいと考えております。

そして、まだ足りていないのは、我々ウェルスポの市民向けのプロモーション、市民の方々がなかなか我々の活動を、存在すらご存じでない人もいますので、存在として活動を知らしめていくのが今年度以降の展望・課題という風になるかと思えます。

長々説明してしまいましたが、以上となります。よろしくお願いいたします。

○花山委員長 ただ今の事務局の説明につきまして、ご質問がございましたら、お願いしたいと思えます。特別ないですか。

〔「特になし」の声あり〕

(2) 令和2年度鴨川版スポーツコミッションの事業計画について

○花山委員長 なければ、議件の(2) 令和2年度鴨川市版地域スポーツコミッションの事

業計画についてを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 引き続き、私の方から令和2年度の事業計画についてご説明させていただきます。

まず、来年度2020年度、令和2年度の位置づけですが、ひとつは、我々が関係している交付金事業においては、最終年度となるので、ひとつの大きな節目となります。

これは行われるかどうか分からなくなってきましたけれども、2020年東京オリンピック・パラリンピックが行われるということ、そして恐らく昨年の台風被災、また今回の世界的な新型コロナウイルスの蔓延、それによる社会経済の混乱ということを考えると、恐らく2020年はいよいよライフスタイルやツーリズム、あるいは価値観が転換していく、その節目になるのではないかという風に考えております。そういった位置づけを捉えながら、我々としては活動していきたいと考えております。

2020年のテーマとしては、まずひとつは、限られたヒューマンリソースの中で我々も活動しておりますし、もちろん皆さんも青天井ではありません。また時間も限りがありますので、まずはやるべきことをしっかり絞り込んでいきたいと考えております。その上で今後数年、そして10年、20年と持続可能な組織を確立していきたい。

その中で私たちが掲げるモットーとしては、組織は小さく、仲間は広くという考え方を持っております。つまり組織の中に多くのヒューマンリソースを抱えるのではなく、この地域の中に活動されている方々、関係する団体の皆さん、あるいは実は皆さんまだ知らないかもしれないですけども、地域の中で一生懸命やろうとしている方、そういったいろんな方々がいらっしゃいますので、そういう方々をウェルスポのひとつの仲間として一緒に取り組みながら活動を展開していきたい。ですから、組織はあまり大きくしたくないということを考えております。

事業の中でまず1番目、スポーツイベント・キャンプの誘致事業に関しましては、重点目標としては、オリパラ事業ではありますが、その先にどんなものを残していけるのか、継続性を持っていけるのかということになるかと思えます。

まず東京オリンピック関連合宿誘致の部分に関しましては、市とタッグを組み、しっかりと実施していかなければいけません。また、その中で市民との交流というものもしっかり追求していきたい。

今後、予定されておりますけれども、パラリンピックの採火イベントというのが千葉県内で行われることになっております。また聖火リレー、そういったものの支援を我々としてもしていく予定です。ここが一番重要になってきますが、キャンプ誘致に成功した暁には、対象国・都市との官民交流をこれからスタートさせていきたいということで、そこはしっかり模索をしていきたいと考えております。

続いて、大会・合宿誘致に関しましてはサーフィン等マリンスポーツの振興を目的とした大会・合宿等々の誘致を進めていきたい。また、今年度は残念ながら実現しませんでしたけれども、女子ソフトボール等の日本代表キャンプ、またここ2年実施いただいているブラインドサッカー女子日本代表キャンプ、そういったところも支援させていきたいと考えております。

続いて、施設利活用事業に関しましては、ひとつは、総合運動施設の将来像・整備計画をしっかりさせていきたい。そして私たちのひとつの目標とする指定管理の受託を実現に

向けて当法人としては努力していきたいと考えております。

続いて、最後にスポーツ文化創造事業に関しましては、先ほど申し上げたように、しっかり事業を絞り込み、整理整頓を行う。その上でただ、やって終わりではなく、しっかりそれがその後の形に結びついていく実現性の高いモニタリングを企画・実施していく。また繰り返していくということ。そして、その結果、商品造成による収益モデルの確立まで今年度できれば、これはなかなか難しいところですが、それをあくまでも追求していきたいと思います。その中で、例えばマリン・ビーチスポーツに関しましては、今、別事業で進められておりますフィッシャリーナ後背地で公園等々がこれからでき上がって参るかと思えますけれども、その部分、また隣接する前原横渚海岸を活用したプログラムをより積極的に展開を我々としても、していきたいと考えております。

また、それと関連してビーチアクティビティ、ビーチスポーツあるいはライフセービングなど、我々スタッフもそういったところと関係を持っているスタッフがかなり多いので、そういった人脈をしっかりと生かしながら、プログラムを展開、できればちょっと収益性が出るというなということも考えております。

また、鴨川市の課題でもあります、東条海岸マルキポイントをしっかりと活用することを検討して、関係機関と調整をしながら、これに取り組むことができれば、地域としての収益化を図っていききたいと考えております。

続いて、ウェルネスツーリズム、サイクルツーリズムよりもっと広く捉えることにしたのですが、ウェルネスツーリズムとしては、レンタサイクルのサービスを試行しておりますが、これは市民の方々に多く認知されておられませんので、そういったしっかり打ち合わせしながら、特にe-bike等に力を入れていきます。スポーツバイクもちろんありますけれども、その本格展開をしていきたいと考えております。

また、ウェルネスモニターツアー、本年度は台風、新型コロナウイルスで、できなかった部分もあるのですが、しっかり最終年度においてはこの計画を、早目に実施をしていきたいと考えております。その結果として、2020年度の後半には商品が幾つか生まれてくるようなそういった状況をつくっていききたいと思っております。

もう一つ、今年度で特にやって来なかったことなんですが、市内には体験プログラムがいっぱいございます。例えば陶芸ですとか農作業ですとか、あるいはスポーツ系もあります。そういったものを、一度、当法人のスタッフで実態調査をしたいと考えております。これをしっかりデータベース化をして、例えばこの体験プログラムであれば、当日電話をしても対応してもらえる、あるいは団体も大丈夫だ、あるいはここは、当日受付は厳しいと、そういった情報をしっかりと整理して、我々のウェルネスモニターツアー、あるいは鴨川観光プラットフォームさんが展開されているようなものにも生かしていただけるような、そういったデータベースをしっかりとつくっていききたいと考えております。

先ほどお見せしたロゲイニングアプリ、「Rogaining Hunter」という名前で作っているのですが、こちらの活用展開をツアーなどで図っていく予定です。このロゲイニングアプリについては、実はライセンス的なことを考えていまして、将来、ほかの自治体さんとか、ほかの地域でこのアプリを活用したいと言うという時に、そこでばら儲けしたいとか、そういうことではないのですが、ある程度私たちがしっかりと予算を使って作ったものですから、そこである程度回収できるような、そういったことも実は考えております。

続いて、農林業×スポーツという部分では地元が盛り上がってきております。草刈りサミットをさらに拡大して、実は地元の方々からも、私たちではなくて、地元の方々から一般の人を参加させたらどうか、あるいは、ツアーなり、ひとつの大会をやってみたらどうかという、非常にうれしい反応がございますので、2020年にできれば、そこまで挑戦してみたいなと思っております。また、先ほどありましたウェルネスツーリズムについても農林業を活用したものを考えていきたいなと考えております。

さらにパラスポーツ、こちらは「Xmas GAMES」が350人の親子、地域の方にも来ていただいて、ぜひクリスマスのシーズン、鴨川はそういったイベントがあまりなかったということで、毎年定番としてやってみてはどうかということで、ありがたい評価をいただいておりますので、できれば今年度の開催に向けて準備をしていきたいと考えております。

また、その過程の中で、鴨川でボッチャが実はシニアの方々を中心にはやってきているという現状があるのです。ですので、2020年度鴨川でボッチャ大会を開催、場合によっては地元の方々を中心にリーグみたいなものを作って、介護予防ですとか、福祉の健康増進に生かしていければ、またパラスポーツというのはユニバーサルスポーツという側面があります。つまり健常者がやってもいいスポーツなんです。ですから、パラスポーツ、障害者スポーツというよりは、ユニバーサルスポーツとして多くの市民が参加をする、そういったひとつのハブになるようなスポーツとして位置づけを考えていきたいと考えております。

そして地域ウェルネス推進ということで、みんなみの里で行ってきた「ウェルkamoo教室」をさらにブラッシュアップして展開していきたいと思っております。また、この文化体育館で設置した「ウェルkamooコーナー」を通じた情報発信等々を行うことによっても、この施設のイメージアップなどはいろんな意味づけを新たに加えていきたい。

そして、シニア、キッズ向けにはこれからウェルネス・スポーツプログラムの開発をして、こちらにも展開していきたいという風に考えております。

また、今年度ここまで出来るかどうか分かりませんが、もうひとつのテーマとして、働き盛りの方々、実は健康に対して無頓着な世代でもありますので、働き盛りの方々に向けた、例えば企業を訪問して、我々のノウハウでちょっとお時間をいただいて、健康的な教室をやるとか、そこから言った企業の生産性の向上にもつなげていくとか、健康保険につなげていくとか、お手伝いをするようなプログラムというものを考えていきたいと考えております。これも今年度最後の方にテスト実施までいければなと考えております。

その他としては、我々の大きな課題である存在・活動というものをより多くの市民にPR、また仲間をどんどん増やしていきたいと考えておりまして、プロモーションとしては、今までやってきたパンフレット、あるいはホームページ、SNSなどの取り組みに加えて、本当は3月に配布する予定だったのですが、学校が休校になってしまったので、1カ月先待ちして準備しているのですが、学校向けにウェルスポ通信というものを発行して、鴨川市内のスポーツとか、あるいは健康ですとか、そういったトピックですとか、あるいは我々自身の活動の報告、また、例えばこういうコーナーができましたよというPR、そういったものを学校の方を通じて多くの市民の方に知っていただくような、こういった広報紙というものを現在企画しております。それが恐らくですが、カモジンの編集もしていた

経験があるので、これでかなり多くの市民の方々に認知をしていただけるのではないかと期待をしております。また、さらに動画の配信ですとか、あとはマスメディアなどへの積極的な情報発信をさらに行っていくということで考えております。

さらに今年度も人材の育成、この人材の育成というのは、私たち組織の中だけではなく、例えば青年会議所、若獅子の皆さん、商工会青年部の皆さん、地域の若手団体の皆さんと連携をしながら、事業をしっかりと展開をしていきたい。いろんな企画をしていきたいなど考えておりますし、また関係諸団体、今日皆様お集まりでございますけれども、推進委員会委嘱されている団体の皆さんを中心として、地域総合型スポーツクラブの皆さん、学校、あるいはスポーツ団体、そういった皆さん、また障害者スポーツを取り組まれている方ですとか、そういった方々とも連携をしながら事業を企画、実施をしていきたいなど、そこで仲間のネットワークというのを広げていきたいと考えております。

最後にお知らせですが、今日、実は1階ロビーのところで「ウェルk a m oコーナー」を設置させていただきました。e - b i k e も実は現物がありますので、この後全て終わりましたら、ぜひお立ち寄りいただいて、e - b i k e の説明をいたしますし、あと左側に置かれている機械は、体脂肪計の本格的なものになりますので、これはぜひ皆さんに体験して帰っていただければと、きちんと印刷でレシートみたいなものが出てきますので、今日、夕食1品ぐらい減らす人が多くなるかもしれませんが、これはおもしろい機械ですので、ぜひお試しください。18日、19日には、体験会を開催する予定です。

ただし、新型コロナウイルスの関係もあるので、今回、申し訳ないですが、大々的にはPR、プロモーションしておりません。そこは今の情勢的にまずいなということもありますので、皆さんのお知り合いベースで来ていただければ、順次体験できるようになっておりますので、もしくはちょっと時間がないよとか、あと今日体験して、家族にもやってみたらいいんじゃないとか、ちょっとうちの社員を連れてきてみたいなのというのがありましたら、ぜひこの2日間来ていただければ、専門的なアドバイスなどもする予定でおりますので、ご利用いただければと思います。以上で、事業計画の発表といたします。

○花山委員長 ただ今の事務局の説明につきまして、ご質問がございましたら、お願いしたいと思います。

○鈴木委員 質問じゃないんですけれども、ひとつの意見として、私、観光という立場からウェルネススポーツ、スポーツコミッションに興味を持っているわけですが、先ほど学校関係のところをターゲットにとおっしゃいましたが、ぜひ企業をターゲットにしていきたい。つまり、いわゆる社員旅行が昔のように温泉に入って飲み食いして終わりというような形から、形がどんどん変わってまして、健康に対する意識だとか、従業員間の結束力を高める場とか、そういったものに目を向けている企業が多くなっています。そういう企業ほど文化レベルが高くて、お金を使ってくださるという意味では、宿泊とプログラムをパッケージにした商品を作るわけです。旅館・ホテル等も一緒になって企画をつくって、お互い連携しながら高め合っていきたい。こんな視点をお含みおきいただければ大変ありがたいと思っております。

それから、スポーツ大会の実施については、開始時間というものが非常に効果があると

聞いております。つまり12時ぐらいに始めちゃうと、宿泊せずに日帰りできる。朝早く始めると前日から宿泊が伴う。そんな視点からも、姑息かもしれませんが、効果がありますので、ぜひお考えいただければと思います。以上です。

○清水委員 鴨川グラウンドホテルさんで、社員運動会を計画していただければ、ぜひスポーツコミッションの方でやらせてみてはいかがでしょうか。

○事務局 最近は休館日が増えていますので。

○花山委員長 そのほか何かありますでしょうか。

○渡辺委員 令和2年度事業計画に関してですが、私、理事もやっている関係で、とかあるのですが、岡野さんがやられていることというのは、今回も事業報告があったので、ここで痛烈に感じたことは、新しいプログラムをつくっているんだと、ここに得難い人財のネットワークがあるなと思ひまして、ただし、これを事業化することに関しては、鴨川観光プラットフォームさんの力を借りてやっていって、つまりここに宿泊とか地元の旅館関係をパッケージ化していかないと、なかなか地元にお金を落としていかないということになってくるので、ですから、すばらしい才能とネットワークということを生かしつつ、これを事業化することに関して、ある程度、今試験的にいろいろなことをやっていると思うのです。

やっていく中でいいことが出てくるわけで、上手くいかないのはだめということではなくて、そのやり方はすばらしいわけであって、その中からだんだん、やるべきプログラムが固まってくる。その後には事業化という形をした時に、どうやって地元にお金を落としていくのだということと、持続的にお客さんをどうやって誘致していくかということになってくると思うのです。

そうすると、多分せつかく鴨川観光プラットフォームという形があって、当初、2つの組織があること自体がおかしいのではないかというのをかなり私の中にそういう認識の違いがあった。考えてみたら、性格が違うのだから、補完関係さえつくれば、別に十分できるのではないかなという風に岡野さんの説明を聞いて感じました。

ですから、組織論になりますけど、将来的にはそういう仕分けの中で、鴨川市として限られたリソースをどう使っていくかという風に考えられるのかなと思ったもので、事業計画は、少しまだこれから試行錯誤しながらやっていくはずなんで。

○花山委員長 じゃあ、事業計画を進める中で検討していくことで、お願いいたします。このほか何かございますでしょうか。

○鈴木委員 ひとつ質問なんですが、各地でいろいろマラソン大会を取り入れている地域がある。こういう話題というのは、出てませんか。

○事務局 例えば千葉で言うと、スイカマラソンですとか、富里さんとかありますけれども、どちらかと言うと、鈴木さんがおっしゃったのはそっちの方のやつ、競技の、ばりばり東

京マラソンみたいな42.195キロ走るとかのものではなく、地域資源と掛け合わせた多くの人が集まってくれるようなものをおっしゃったのかなと思ったのですが。

マラソンは多くの人を集める大会ひとつとして、話は出てきます。ただ、ひとつは道路の規制関係のなかなか手ごわい部分と、あとは実はマラソンがトレンド的に増え過ぎてしまったということがあり、事業計画には入ってません。実は同じようなものとして、例えば自転車ですとか、ほかの手段で同じような先進的な取り組みができればいいなというのは、考えております。

○花山委員長 ちょっと私の方で、鈴木委員からマラソン大会というお話がありましたが、体育協会を預かっている身に対しまして、いつとき秋にコスモスロードというものをつくってもらいまして、警察の方は協力してくれますので、早稲田、城西、東洋は箱根で有名ながあるので、できましたら20キロコースぐらいまで持って行って、そこにスポーツ選手でなくても、みんなレクリエーションでもいい、旅館・ホテルも協力してもらってというところまで持っていこうと思ったけど、ちょっといろんな形で、あれが環境課サイドでやっていたものですから、市長が代わりまして、今中止という状況になっています。大学の関係機関がせつかく3つ以外に千葉大学とか東京大学とか5つあるわけですから、これらに協力してもらえば、まだまだいい大会が出きると思います。マラソン人口、非常に大きいものですから、1日でもやれば、前日市内の旅館全部いっぱいになるように思っているんです。

○花山委員長 それではよろしいでしょうか。

(3) その他

○花山委員長 (3) その他、事務局の方でありますか。その他ありますでしょうか。ほかになれば、議事を終了いたします。スムーズな議事の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。これで議長を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

1 地域おこし協力隊活動報告

○事務局 ありがとうございました。続きまして、スポーツを通じた地域振興の絡みで、スポーツコミッションとともに進めていただいている地域おこし協力隊、昨年6月に市の方で委嘱をさせていただきました小野幸一隊員から活動報告がございます。

地域おこし協力隊という言葉聞いたことはございますでしょうか。当鴨川市の方でも進めておりますが、今、総務省が全国で推進している制度でございまして、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方で、首都圏から人材を受け入れまして、さまざまな活動に従事してもらいながら、地域力の維持や強化を図っていこうとするものです。鴨川市では、現在4名の協力隊員を委嘱しておりまして、スポーツを通じた地域振興につきましても、さまざまな地域資源と組み合わせた活動を展開していただくことで、地域の活性化と

情報発信をして、1人でも多くの将来の移住・定住の促進を図ろうとしようとするものです。

小野隊員ですけれども、岡山県倉敷市の出身で、もともと棚田のオーナー制度で大山千枚田の活動に従事したことを契機に、地元の方々とも交流を深めておりまして、このような中、鴨川市で協力隊を募集しているよということで興味を持って応募されました。

現在は、このスポーツコミッションとともに鴨川市の自然を活用したスポーツや鍼灸師の資格を生かした教室などにも取り組んでもらっております。それでは小野さん、よろしくお願いします。

○小野地域おこし協力隊員 皆さん、こんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。地域おこし協力隊の小野です。自分のやっていることは今年これぐらいです。市民のための健康教室や陶芸体験会、先ほど下に置いてありました、e-bikeと普通の自転車含めて32台つくったりとか、整備等々をやっているという形です。イベントは先ほど岡野さんが説明してくれたので、写真でいろいろ紹介します。

これが「ウェルk a m o教室」と言って、体操教室、左側は、僕らは鍼灸師なので、おなかをマッサージするのです。これを応用して、こういう風にやるんですよ、おなかはゆるい方が健康的にいいですよというのを説明しながらやっているところです。右側は、骨盤の使い方、骨盤って、日本人は猫背になりやすいのです。もともと田植えとかやるために、背中を丸くしやすいので、骨盤が寝ちゃう。それを起こした方が力が出るよという説明をして体操をしている。地域の方に来ていただいて、少しでも体の調子を整えていただいてというのも局目的にやっています。

「草刈りイベント」、先ほど説明がありましたけど、僕はもともと、棚田のオーナー制度でこちらに来ましたから、こうやって草刈りも家の周りだとか、自分でやっている田んぼの周りも全部自分でやっていますから、こういう時いろいろ、やり方を説明したり、都会から来ている方が参加して、草刈りを指導しました。なかなか一度に全部は説明しきれないので、そのたびに刈っている場所に行っては声かけて、分からないことがあれば説明したりしています。

最後、終わった後に、野山を散策することがとても好評です。この時はちょうど山野草ができて、こういうのが食べられるんだよとか、こういうのが生えているんだよとか、いろいろ説明しながら歩きました。草刈りイベントに40名参加していただいて、約半分の20名ぐらいが歩いて大山千枚田まで散策して上がった。都会の人はこういうところ来たことがない、こういうところを歩いたことがないという人が多いので、いろいろ学べる雑草や、いろいろなところを見て回って、というシーンです。

今僕らが仕事としている、サイクルツーリズムですけれども、e-bikeを使ったツアーは何事も初めてでしたから、伊豆の方でXベースという場所があって、メリダさんというメーカーの自転車のメンテナンスについて研修を受けさせていただきました。2泊3日で自転車をどうやって組むか、モーターを外して、モーターがだめになった場合、修理がなかなかできないので、使った後、一旦外して、こうやって泥が残るんだよという風な掃除の仕方を習っているところです。それ以外習ったのは、ブレーキの補修だとか、とか言う基礎的なところで、その知識を生かしていきたいと思います。

今、ここにある自転車、e-bikeが10台あります。下に置いてあったものです。あれがそのうちの2台です。その他スポーツバイクが12台あります。ロードバイクが8台、マウンテンバイク2台あります。これを2カ月ぐらいかけて、一台一台丁寧に組んで、中には調整しきれていないものもある。箱から出して組んでいくのですが、中には自転車がーから組み直しをしなければいけないぐらいの物があったので、結構な時間がかかっています。これを使って自転車のツアーとか、体験会というのをやっています。

これはe-bike体験会の風景です。数分していても、坂道を登っていきます。一番右の白い服の方、70歳、おなかが出っ張っていて、乗れるかなと思ったのですが、この裏の坂道に行ったのですが、70歳のおじいさんが登っていけるぐらいの自転車の性能はあります。また、真ん中の、スカートをはいている女性の方がいました。そういう方も普通乗っていきます。

この中にe-bike乗られた方はいらっしゃいますか。ありがとうございます。ぜひ乗ってみてください。下に置いてあるので、足りなければまた持ってきます。ぜひ体験してもらえばよく分かると思います。自転車としては全然違うのです。自転車というよりはe-bikeという新しいスポーツです。さっきも新しい事業をつくっていくと言われていたのですが、新しいものを使った新しい業界をつくっていこうとしているのが、今僕がやっているというところです。

これは、11月に熊本でアドベンチャーレースの大会がありました。その時の写真です。アドベンチャーレースというのはマウンテンバイクだったり、走ったりで、ロゲイニングアプリという地図を使ってチェックポイントをどんどん取っていくという大会があります。それは世界的には8日間とか10日間ぐらいの競技なんですけれども、この時は、24時間です。

左側、カヤックをやっているんですけど、湖ではないです。何だと思いませんか。田んぼの中です・こういう風に地域に活用することもできるかなと思って、このような大会を地域に生かしたい、アドベンチャーレースをしたいわけではなですけれども、この辺は農村風景がたくさんあるし、遊び場所は僕らからするとたくさんあるんです。

なので、こういうことをどんどん地域に生かしていけるような体験をしておけば、体験してきて、それを地域に生かす。鍼灸師として自分で学んだことをさっきの健康教室でお話できるようにしていきたいし、こういう風にどんどんいろんなことにチャレンジさせていただいて、地域の方を活性化していければなと思っています。

報告としてはこれだけなんですけれども、何か質問とか、聞いてみたいことがあれば。

○鈴木委員 自転車を作っているんですか。

○小野 はい。自転車というのは、e-bike。基本的には、ワイヤーとかは、自分で組まないといけなことがすごく多いです。ブレーキに関しては、オイルが入って、オイルブレーキなので、オイルを入れてあるんですけれども、それが入れ過ぎていたりするのがかなり多いので、調整しながら抜いてとかですね、簡単に言うと。買ってきてすぐ乗れるという状況ではないので、全部、整備を必ずして、初めてレンタルバイクとして出せる。今32台と書いてあるのですが、それが子ども用の自転車が4台追加できているので、それ

も自分で調整しながらやっています。

ほかに聞いてみたいなということがあれば。新しくやることがたくさんあるので、今回特に新型コロナウイルスや台風でいろいろできないことがたくさんあったんです。自分の持っているものを、リソースというのをたくさん出せるようにやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。（拍手）

2 意見交換

○司会 ありがとうございます。では、最後、意見交換に入りたいと思います。これまでさまざまな説明をさせていただきましたが、委員の皆様からこの際、お考えになっていることでも構いません。ございましたら、この際ですので、お願いいたします。

○清水委員 こういうスポーツの会議ということで、いろんなところに呼んでいただいて、いろんなことを好き勝手に言っているんですが、その時、いつも思いますのは、スポーツというものは何なんだと言うと、競技性となるものでもないし、いろんなものをスポーツとして扱うようにしたいなという風に意識をしています。

そういうことでいくと、福利厚生もそうですし、極端に言えば、介護というところまでいきませんが、その一步手前のところとか、全部含めて健康という、そういう風なキーワードでくくってしまうと、それはほとんど同じものではないのかなということを常々感じております。そういうことでは、スポーツというところで考えると、今まで何らかのそういうスポーツに関することをやってきた人、あるいはそれに興味のある人だけではなくて、今まで全くやってこなかった人、あるいは今まで全く興味がなかった人をどう取り込んでいくかということが大事なんだなということを思います。そういう意味で、親スポーツ、親福祉みたいな、そこを一緒に含めてやっていけるような、ぜひそういう風な体制を進めていただきたいという風に思います。よろしくお願いします。

○司会 ほかにございますか。

○里見委員 今、清水委員さんのお話でも介護という言葉が出たのですが、サイクルツアーでも、70代の方でも簡単に登れるとおっしゃっていた。70代とか80代の方がいたら、アクティブな方はアクティブなんですけど、表に出ない、全く出ない人とか、出ないんですよ。私の祖父とか祖母も全く家から出ない人で、だからそういう人にもプロモーションするには、さっきもウェルスポ通信とかもありましたけれども、学校や施設に配るとしても、どこかに配るのはお金がかかって大変かもしれないですけども、一つ一つ、配ることによって、全く家から出ない人でも出るようになる。どうにか広く知らせる仕組みがあったらいいなと思いましたが、いかがでしょうか。

○事務局 ありがとうございます。先ほど来お話をしているとおり、どうやって皆さんにこういったものを知らせるかというのが大きな課題のひとつ、というのは、我々もウェルス

ポを自覚しております。例えば市政協力員を通じて回覧ですとか、そういった方法もありますし、お金をかければ、当然新聞の折り込みチラシというのも可能です。いろいろな有効手段を考えながら進めて参りたいと思っています。

先ほどスポーツの枠というお話もいただきました。私から言っているのかどうか、分かりませんが、ウェルスポの教室にあたっても、スポーツを前面に出しては恐らくスポーツに興味がある方しか来ない。ということで、その始まりのきっかけは、例えば腰が痛いとか、肩が痛いとか、そういったところをどうにか治しませんかみたいな取りかかりで、そこに不安を抱えている人たちが積極的に参加できるような、そういうような取り組みもしていただいています。今後もスポーツという枠に捕らわれず、スポーツ振興課としてもそのようなスポーツの推進をして参りたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○瀬戸川委員 サイクルツーリズム協会の瀬戸川ですけれども、我々が感じていることを申し上げさせていただきますと、特に新型コロナウイルスの状況、あまり楽観的に見ていなくて、先ほど説明にありましたけれども、価値観の変化とありましたが、いろいろ行動パターンとか、今後変わってくるのではないかなと思っています。例えば我々の先週の平群クラブハウスで運営しているところでは、サイクルリストの数自体は減っていないのですけれども、結構新しい方々がお見えにいられて、これまでしばらく乗っていなかった人だけでも、消去法的にちょっと自転車に、こういう環境だから乗ろうとか、あと親子でレンタサイクルを借りたいとか、これは今まであまりなかったのですが、そういった意味で必ずしも否定的な状況ばかりではなく、相対間の中では、例えば南房総とか、スポーツという中でやれるところもあるのではないかと思いますけれども、ただ、いずれにせよ、非常に厳しい状況になってくるのではないかと思いますけれども、先ほど岡野さんから事業計画を出されまして、我々もあるのですが、これはがらっと変わっていく可能性が高いと思ってまして、そういった時にそれぞれのビジョンに立ち返って、この環境で何ができるのか、柔軟に考えていく必要があると思っています。そういった意味ではまた我々の協会としてもウェルネススポーツさんと一緒にやれることもあるんじゃないかと思っていますので、その辺は一緒に考えていきたいと思っています。

○鈴木委員 さっき申し上げたことにつけ加えてなんですが、法人が自走していくためには、より多くのプログラムが多く売れるということが大切だと思っております。実は大手の旅館・ホテルさんは、うちも含めまして、営業マン抱えています。営業マンが首都圏を中心に毎日、エージェントさんがセールスだとかではなく、企業に直という形で販売活動をしているわけです。

そこでこういう形のパンフレットでプログラムが記載されている。幾らなんだよという価格表示があると、これを宿泊をパッケージに鴨川の旅館さんだけの資源として利用できるようになれば、他の地域の旅館さんとの共同で大変役立つんですね。それでいて鴨川全域のホテル・旅館の営業マンが首都圏を中心にしてセールスに行く。これもひとつ、いかに知らしめるかということのツールがと言うことで、お互いウインウインの関係になるんじゃないかと思っていますので、ぜひ営業マン、ホテルが動けるようなパンフレットとかそういったものをご用意いただければありがたいと思っています。

○事務局 ありがとうございます。それを我々としても作りたいと思っております、体験プログラムの訪問調査も、その意図が実はありまして、例えば私も結構、沖縄とか行ったりした時に、そういったものがしっかりあるんです。ホテルに入ると、必ず客室前、フロント前にプログラムの冊子があって、前にツアーデスクがあって、そこに例えばスキューバダイビングに来たよとか、どこかシーサー作に来たよと言うと、そこで手配をしてくださって、明日何時何分に行きます、集まってくださいね、あとは業者さんが来ますよとなっておりますので、今鴨川で私もそういったものを考えた時に、まずしっかり調査をして、情報をアップデートして、本当にそれに販売できる業者さんがどれだけいらっしゃるのか、その間にもう一つそれをアシストする、例えばそれが我々だったり、鴨川観光プラットフォームさんだったり、そういう組織があることで実はそういうことが実現できる場所があるかもしれないですね。だから、そういったものをしっかり整理整頓して、さらに今おっしゃっていただいた営業の方々に提供していく。そういうものをぜひ早いうちに我々としても準備したいと思います。

○渡辺委員 先ほどからレガシーというものがあったり新しい価値観という、新型コロナウイルスで地元の関係者が青色吐息の中で、非常に重苦しいところがあるんですけど、逆に言うと、こういう苦しい時だからこそ、どう事業を進めていくかによって、この地域のひとつのブランド力と言うか、対応できるイメージが絡んでくるんで、そういった意味では苦しい中でもやっていかなければならない。その核は何だろうということを考えていっても、リピーターを、お客さんをつくる観光をやっていかなければいけないんだ、それがこういう苦しい時に、またいらっしゃるお客さんにつながっていくわけです。

そういった意味では、新しい価値観という中でベースコストというのはひとつの方向性で、この地域が、こういう時代だからこそ、新しい価値を生み出す可能性が高くなってくるんで、そういう方向性の中で足が地についた、しっかりサービスの形をやって、コアのリピーターのお客さんをどう掴んでいくかということに冷静に対応していくということが、結果的には長い目で見た時に商品価値を高める。そういうことも大事なかなと思います。

○事務局 抽象論的な話ばかりするのが好きなんです。実は私は、皆さんご存じないかもしれませんが、私は神主であったのは皆さんご存じだと思うのですが、22年前にITの会社をつくったことがあります。その会社が22年たって生き残っているんですけど、あの当時、私が会社をつくった時に言われたのは、インターネットでは絶対儲からないと言われたんです。インターネットで商売をやるなんて、狂っていると、みんなに言われました。特にインターネットに詳しい人ほどそう言われました。ところが、私、よく講演なんかでもその話を使わせてもらうのは、今どうですかと。今インターネットなしで商売できますか。だから世の中の価値観というのは、今我々が常識だと思っていることが必ずしも常識であり続けるか、ターニングポイントが絶対来る。実はあの時、1998年か2000年にターニングポイントが来たんです。なので、我々がやろうとしていることは多分スポーツ、日本では、スポーツでは儲かるのかとまだ思われている。私は同じ言葉に感じるんです。恐らく今回の新型コロナウイルスが、実は体力が強い人は、高齢者でも重症化しないとい

うことが恐らく分かってくるかかもしれません。そういった時に、実は皆何を追求するかと言ったら、これから多分健康とか体力向上とか、そういったものを追求してしていく可能性が出てきた時に、自分の命を守ることですから、当然スポーツとかウェルネスというものがビジネスとしてもっと成り立つ時代が、急激にここ数年訪れる可能性が出てきたなと、私は思っています。

今鴨川にとっては非常に厳しい状況ですが、新型コロナウイルスと台風ですね。そういった意味では自分なりににはポテンシャル管理と。鴨川観光プラットフォームさんと僕は絶対連携してやっていかなければいけないし、我々も去年の計画の段階で、ハイブリット経営を考えました。地域として鴨川観光プラットフォーム株式会社と一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川がハイブリットの経営関係の両輪でやっていこうという提案をしているのですが、あえて言うならば、我々はベンチャーだと思います。少人数でそんなにお金を投入できない。でも、とにかく鴨川市として危ないかもしれないけれども、僕らが鉄砲玉になって、とにかく突っ込んでいく。それをしっかり見極めた上で連携して、プラットフォームさんの方でしっかり地域としてもうけていただく。そういう関係性がつくれれば、これは地域にとって両方の武器を持つので、大きなことになるのかなと、私たちとしてはそういう存在でありたいなと思っています。

先ほど鈴木さんがおっしゃった、プラットフォームのことなんですけれども、我々がそのネットワークを追求できる、その商品を提供して、多分それをマーケティングして売っていただく。我々も売っていただいたところで、多少なり組織の援助をさせていただく言う、そういう関係性が築ければ、非常に地域に資することになるのではないかと考えています。

○清水委員 今岡野さんからお話いただいたその一環として、私たちが志向する、鴨川スポーツウェルネスの一環としてかなり変わりますね。当然のことながら地域の健康とか、そういうことに寄与する、そういう信念も多く受けていくのではないかと思いますので、そういう部分の話で、ひとつのスペースを確保していただくだけでも、協力できることがあるのではないかなと思うのです。定義はそういうところも進めていきたければと思います。

○司会 ほかにございますか。

○座間委員 岡野さん、ご担当でご報告いただきまして、ありがとうございます。本年度初めて参加させていただいている青年会議所の座間と申します。皆さん、よろしくお願いいたします。意見として述べさせていただきたいのが、今後プロモーション活動というのが非常に重要になってくるかと思います。去年の台風から、そして新型コロナウイルスという形で、鴨川に対するイメージですとか、鴨川に来る実際のお客さんというのが非常に少なくなっております。もちろんウェスポさんなどもそうだと思うのですが、市としてもどのように広報してお客さんを今までに戻すのか、そして今まで以上に伸ばしていくのかというのが非常に重要になってくるかと思うので、しっかりプロモーション活動をしていただければと思います。そして、今回、会議という形になりますので、できれば、会議資料等は事前配信をしていただいて、こういう資料をたくさんいいことが書いて

ありますので、私もそうですけれども、事前に配信していただくことによって、この資料を読み込んで会議に挑むということができるかと思います。そして、今回、第2回という形になりますので、第1回やられたこともあるかと思います。第1回の議事録等もあると、前はこういう話をしたというのがすぐ分かるかと思うので、こういうところのフォローを徹底していただければと思います。以上でございます。

○事務局　ありがとうございます。資料の作成が遅れまして、申し訳ございませんでした。おっしゃるとおり、この会議に来て、この資料をぽんと出されて、ご意見をと言っても、限られた日ごろこういったところに接している方でないと、意見というのは難しいかと思います。今後はなるべく早く委員の皆様方に資料を配れて、前回との関連性、そういったものを説明できるような形でできたらと思います。ありがとうございます。

○花山委員長　ありがとうございます。このあたり、実際細かなことになると思います。お知恵をいただければと思います。

○司会　ほかにございますでしょうか。なければ、この辺で意見交換を終了させていただきます。ありがとうございました。

5. 閉　　会

○司会　本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。以上をもちまして本日の全ての日程を終了させていただきます。また引き続きご指導をお願いいたします。

(16:00終了)

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3条の規定により、会議録の確認をしました。

令和2年5月18日

会議録署名人 氏名 渡辺淳一